

会議の開催結果について

- 1 会議名 令和5年度第2回上尾市幼児教育推進協議会
- 2 会議日時 令和6年3月1日（金）
午後3時20分から午後4時40分まで
- 3 開催場所 上尾市役所7階大会議室
- 4 会議の議題
 - (1) 報告
 - ・令和5年度上尾市幼・保・小連携合同研修会について
 - (2) 協議
 - ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼児教育施設における保育や教育について
 - ・幼児教育施設で育まれた資質・能力と、低学年の各教科等における学習との円滑な接続について
- 【報告】
- 5 公開・非公開 公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 0名
- 8 問い合わせ先 上尾市教育委員会学校教育部指導課
048-775-9672

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回上尾市幼児教育推進協議会	
開催日時	令和6年3月1日(金) 午後3時20分から午後4時40分まで	
開催場所	上尾市役所7階 大会議室	
議長(委員長・会長)氏名	首藤 敏元	
出席者(委員)氏名	(1号委員) 首藤 敏元 寺崎 恵子 (2号委員) 阿久津 節子 田中 由利子 (3号委員) 稲田 英明 上松 なつみ (4号委員) 石田 賢一 清水 典子	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	【事務局】 学校教育部：瀧澤 誠 指導 課：馬場 志保 内田 智之 【関係課】 保 育 課：小玉 優子	
会議事項	1 議 題	2 会議結果
	【報告】 令和5年度上尾市幼・保・小連携合同研修会について 【協議】 (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼児教育施設における保育や教育について (2) 幼児教育施設で生まれた資質・能力と、低学年の各教科等における学習との円滑な接続について	別紙のとおり
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会 議 資 料	・次第 ・(資料1) 令和5年度上尾市幼・保・小連携合同研修会 実施報告 ・(資料2) 上尾市幼児教育推進協議会幼児施設視察 実施報告 ・(資料3) 協議資料 (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼児教育施設における保育や教育について (2) 幼児教育施設で生まれた資質・能力と、低学年の各教科における学習との円滑な接続について ・(資料4) 令和5年度上尾市幼児教育推進協議会委員名簿	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和6年 3 月 27 日 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> 議長(委員長・会長)の署名 議長に代わる者の署名 (議長が欠けたときのみ) </div> <div style="text-align: center;"> <div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">首藤 敏元</div> <hr style="width: 100%;"/> <hr style="width: 100%;"/> </div> </div>		

報告 令和5年度上尾市幼・保・小連携合同研修会について

報告
【事務局】

令和5年度上尾市幼・保・小連携合同研修会について御報告いたします。お手元の資料1ページ、資料1を御覧ください。

令和5年8月4日(金)に、上尾公民館にて開催し、上尾市立小学校から22名、上尾市立保育所から13名、私立幼稚園・認定こども園から12名、私立保育園から17名、合計64名の参加がありました。

研修会の内容といたしましては、事例発表、講義、グループ協議を行いました。

事例発表では、令和4年度上尾市私立幼稚園等特色ある幼児教育推進事業実践園である、みやした幼稚園 鈴木 佐和 教諭、原市文化認定こども園 稲田 英明 園長に、発表をしていただきました。その際、各園から提供いただきました発表資料が6ページから19ページになります。それぞれの園の特色を生かした取組を発表していただき、参加者からは、「自分たちの保育に生かしていきたい」「幼稚園や保育所での体験が、小学校での学びにつながっていることがわかった」などの感想がありました。

次に、講義では、本協議会副委員長でもあられる、聖学院大学人文学部こども教育学科 准教授 寺崎 恵子様には、『『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』をどのように捉えるか』というテーマで御講義をいただきました。「子供たちの目線に立って物事を捉える」ということがどういうことであるか、改めて考える機会となり、先生方の中には、集団の流れの中で「できない子」に対して感じていたもどかしさについて、自分自身の受け取り方を反省し、「明日から優しくなれそうです」といった感想も聞かれました。

最後に、グループ協議を行いました。協議テーマは『『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を手掛かりとした幼保小の連携について』としました。例年、小学校区でグルーピングして協議を行っていましたが、今回は、様々な取組を共有するという目的で、小学校区とは異なるグループとしました。小学校の先生方には、1年生の教科書を持参していただき、幼児施設で育んできた力が、小学校の教科学習等とどのようにつながっていくかを一緒に考えたり、連携の在り方について見直したりすることができました。

参加者からは、「もっと協議の時間がほしい」「もっと他の施設の話を知りたい」という声が多く、先生方の意識の高さがうかがえるとともに、それぞれの立場で困り感を抱えていることも感じました。そのような現状を踏まえ、また、令和5年3月8日上尾市幼児教育推進協議会答申にあった、「就学が近づく1月頃にも研修会を行うことが望ましい」との内容を受け、今年度は、令和6年1月31日に、第2回目の合同研修会を実施いたしました。

資料20ページを御覧ください。こちらは、オンラインでの開催とし、上尾市立小学校から22名、上尾市立保育所から13名、私立幼稚園・認定こども園から13名、私立保育園から29名、合計77名の参加がありました。なお、オンラインでの開催ということで、同じ園から複数の参加も可としました。

	<p>研修会の内容といたしましては、今年度の市内幼保小連携の実施状況の報告及びグループ協議としました。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことを受け、すべての小学校において、延べ89の幼児施設と交流会や情報交換等が再開されました。グループ協議については、小学校区でグループをつくり、今年度の連携の内容について振り返りを行うとともに、次年度の連携内容について話し合いました。</p> <p>様々な連携を再開するにあたり、これまで行ってきたものを吟味したり精査したりするよいタイミングになるのではないかと、また、「交流会等を行うときに、幼児施設の先生方とともに、目指す子供の姿についてもっと共有すればよかった」という私自身の経験から、幼保小それぞれの思いや考えを出し合える場となるようにと考えました。</p> <p>参加者からは、「日々多忙な中で、できそうなことから工夫して取り組んでみたい」「就学前に聞いておきたかったことについて質問できてよかった」「このあと予定している交流会が楽しみになった」といった声が聞かれ、また、情報交換の大切さや、教員同士の人間関係づくりの大切さについても再確認することができ、成果は大きかったと感じています。</p> <p>オンラインでの開催につきましても、初の試みでしたが、概ねうまくいきましたので、来年度も同じような時期に、オンラインでの開催を予定しています。</p> <p>以上で、上尾市幼・保・小連携合同研修会の報告とさせていただきます。</p>
<p>感想・質問 【首藤委員長】</p>	<p>合同研修会が2回行われたということで、昨年の答申を踏まえて、上尾市も進化していると感じました。研究発表では、幼児期の日常的な遊びの中での学びについて、幼児施設の先生方は、「こんなものがあるのだ」と気付くことでしょうし、小学校の先生にしてみれば、保育園、幼稚園によって多様な保育が行われていることがわかったのではないかと思います。だからこそ、一つ一つの園との交流が必要であるという意識になるのかもしれないと感じました。オンラインで2回目の研修会が行われたことは、非常によかったと思います。こういった手段を使えば、3回目も可能になるかもしれませんし、回数を増やせば幼稚園、保育園のことを知る小学校の先生が増えることとなりますので、こういった機会を確保していきたいと思います。</p> <p>小学校訪問をした幼児施設が19件あったということですが、これは幼稚園、認定こども園でしょうか。保育所で小学校を訪問する機会はあるのでしょうか。</p>
<p>回答 【清水委員】</p>	<p>先日、本校に保育所と幼稚園の2園が来校しました。本校は、新型コロナウイルス感染症の影響で直接的な交流は中止していましたが、この研修会で市内の学校が交流を再開していると知り、本校もすぐに幼児施設とアポイントメントを取りました。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>いろいろな行事がコロナ前に戻りつつありますが、幼保小の連携も戻りつつあります。交流するにあたり、計画を共有することはあるのでしょうか。</p>

<p>回答 【田中委員】</p>	<p>本園でもこの間やってきましたが、セットしてくれるのは学校側です。学校から「子供たちをこんな風に分けてほしい」といった話があるので、こちらから班に分けて動けるようにして訪問します。この間は、1年生がどんぐりで作ったコマなどで一緒に遊んだりしてきました。本園の卒園児が1年生になった姿が見られるので楽しいです。ただ、小学校の子供たちには、幼児を遊ばせられるだけの技量はなくて、作ったものを見せてくれるけれど、自分たちが楽しんでいる。うまくできない園児は、お客さんになってしまう。ねらいはあったのだろうが、現実はそこでとまってしまう。それでも子供たちは学校に行って楽しんできました。</p>
<p>回答 【石田委員】</p>	<p>今年は復活させようという思いが強くて、「とりあえずやりましょう」という感じでした。今年は、1年生が幼児の手を引いて、学校探検をしました。1年生は、自分が2年生に案内してもらった時のようにやっていたようです。</p>
<p>回答 【田中委員】</p>	<p>本園が交流している学校では、これまで取り組んできた内容に則ってやってきました。小学校では、30人、40人の子供たちがグループになって活動しているところを担任一人が見るので、どこまで指導するのかは分かりませんが、本園の卒園児がいると、「この子はこんな性格だから、こんな風に言ったらいいのに」と思うことがあります。幼児は、歩いて学校まで行って、屋上なども見せてもらって、楽しかったと言っています。</p>
<p>感想 【首藤委員長】</p>	<p>小学校は、子供たちが自分の成長を楽しむとか、知るとか、次の学びにつなげるといったねらいがありますが、先生方が意見交換できるとよいと思います。1年生と幼児の交流、4、5年生の総合的な学習の時間の中や家庭科の時間の中での交流と、様々な交流が考えられますが、目的は違ってきます。それを幼児施設の先生方にも知ってもらいたいし、幼児施設側の目的も小学校の先生方に知ってもらいたい。そういうことが大事になりますので、指導計画に位置付けて、計画的に取り組んでいくことが必要です。そのためには管理職の力が欠かせません。管理職がその地区の幼児施設を訪問し、学校の教育目標などをお話しすることもいいのではないのでしょうか。</p>
<p>感想 【田中委員】</p>	<p>小学校の管理職が異動すると交流が難しくなることもあります。以前は、学校の先生が挨拶に来てくれていましたが、忙しくなってそのような機会が減り、コロナ禍になって、ますますなくなりました。コロナ禍前に自然と戻ることはないので、こちらからも足を運ぶなどして、細かなところからやっていかないといけないと思っています。</p>
<p>感想 【石田委員】</p>	<p>やはりコロナが大きかったと思います。幼保小の交流だけでなく、保護者や地域との触れ合い、校内行事の実施も難しい状況でした。学校は、昨年取り組んでいたものをもとに計画することが多いので、管理職も何年か変わる中で、前に戻すというか、前を知らないというところから始まる。今回研修会で実践を報告していただき、各校の取組を広げていくことで少しずつつながるかと思います。本校では、先ほどお話があったとおり、1年生が生活科でおもちゃづくりをしまして、そこに園児に来ていただいて、お店屋さん形式で交流会をしました。また、1学期に今年入学した1年生が卒園した園にお手紙を出して、その方々を対象に授業公開をしました。以前教えていた子供たちの成長を見てもらおうということで、子供たちも学校生活に慣れてきた頃に園の先生が来てくれるので、いつもより</p>

	<p>緊張して、集中して授業を受けていました。園の先生方にアンケートをお願いしているのですが、「気になったお子さんや成長を感じたお子さんはいますか」と聞くと、細かに答えてくださっています。私たちは、4月からの子供の姿しか知りませんが、園の先生に見ていただくことで数か月の中での成長を知ることができます。</p> <p>あとは、3学期には、地域にある園の一つから給食体験をしたいとの要望がありまして、3月14日に十数名の園児を受け入れて給食体験会と校内見学を予定しています。こちらも以前やっていたそうなのですが、コロナ禍で中断しており、5類移行を受けて復活させようということで、計画しているところです。</p>
<p>質問 【田中委員】</p>	<p>給食体験会に参加できるのは、平方小学校に入学するお子さんだけですか。</p>
<p>回答 【石田委員】</p>	<p>いいえ。申し出のあった園の年長のお子さん全員です。以前からこまめに交流させていただいている園で、入園式、運動会、卒園式等には校長が出席しています。他の園にも広げたい気持ちはありますが、給食を準備するとなると、物理的観点から難しいところがあります。以前は公立の付属の園があったので、その幼稚園から本校にという流れがありましたが、昨年閉園となり、今ではいろいろな園から来るようになりました。中にはさいたま市の園から入学されるお子さんもいます。現在は、地域の一番近い園を中心に交流をしていますが、校長としてもいろいろな園との交流は有意義な取組だと考えておりますので、よい方法があれば進めたいと思います。</p>
<p>感想 【首藤委員長】</p>	<p>お話を聞いていて、コロナ禍でやっていなかったことを再開するというのは、なかなかハードルが高いということに改めて気付きました。</p>
<p>感想 【石田委員】</p>	<p>以前のことを聞く相手がいないのです。管理職に相談されても、管理職もわからないのが現状です。幼児施設には、長く勤務されていてコロナ禍以前のことをよく御存知の先生もいらっしゃいます。交流をやっていない中入ってきた先生にとってはないのが当たり前で、以前を知ってる先生にとってみればあるのが当たり前なので、その思いのギャップがあります。</p>
<p>感想 【田中委員】</p>	<p>コロナ禍以前は、行事予定が出たところで、小学校と学区内の幼児施設で3月中に会議をやっていました。しかし、管理職が代わったり、私たちも作業が遅くなってしまったりして、計画がうまく進まないこともありました。コロナ禍になり、怖いし、迷惑をかけてはいけないと思って交流はなくなりましたが、情報交換は大事なので入れてもらっていました。やはりお互いに話をしないと難しいので、小学校にお邪魔するためには、管理職との関係づくりが必要です。</p>

協議（1）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした、幼児教育施設における保育や教育について

<p>報告 【事務局】</p>	<p>第1回協議会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした幼保小それぞれの保育や教育に係る現状と課題について、御協議いただきました。お手元の資料26ページ、資料2を御覧ください。令和6年1月12日(金)に、「社会福祉法人 上尾芙蓉会 こどもの園プラムハウス」を視察させていただきました。その実施報告を資料として載せております。視察の中では、自信をもって夢中で遊ぶ子供の姿、子供の興味関心や遊び方、子供同士の関わり等を的確に捉え、子供の思いや発想に寄り添った手を出しすぎない保育士の支援、そして環境の工夫等を見せていただきました。また、朝の会も見せていただきましたが、その際のきれいな声で歌う様子、集中して話を聞く様子につきましても、子供の育ちが感じられました。資料33・34ページに、文部科学省から出されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(参考例)」を資料として載せておりますが、ここにあるような姿を多く見ることができました。</p> <p>このように、確かな子供理解のもと、保育を実践されている先生がいる一方で、第1回協議会の中では、「幼児施設は、環境も保育内容も多様であり、「10の姿」の読み取り方も、施設ごとに大きく異なる」、「幼児教育施設、小学校において、『10の姿』を意識した保育、教育が行われているが、『10の姿』への理解には、教員間で大きな差がある」といった現状があることが意見として出されました。これらの現状を受け、「教職員の『10の姿』への理解」が課題であり、日々の子供の姿を「10の姿」と関連付けて読み取っていく力を付けていく必要があることが挙げられます。</p> <p>教職員の育成につきまして、様々なお立場から御意見をいただければと思います。</p>
<p>質問 【田中委員】</p>	<p>現状②の「『10の姿』への理解には、教員間で大きな差がある」とありますが、この差を埋めるにはどのようにしたらよいのでしょうか。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>研修会は、幼稚園、認定こども園、保育園で行われているのですか。</p>
<p>回答 【田中委員】</p>	<p>保育園はやっていません。冊子はもらいますが、講義は受けていません。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>上尾市の私立保育園協会で合同研修会はあるのですか。</p>
<p>回答 【田中委員】</p>	<p>ないです。コロナ禍前に分科会的な研修会をやろうという話になり、1年目にやって、2年目はコロナ禍になってやれなくなりました。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>保育課でやっている研修会はありますか。</p>
<p>回答 【保育課・小玉主幹】</p>	<p>公立と私立が合同でやっている研修会が年に1回ありますが、そこでは「10の姿」は取り扱っていません。</p>
<p>回答 【阿久津委員】</p>	<p>要録の研修の中で取り扱ったことはあります。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>小学校はどうですか。</p>

回答 【事務局・馬場】	8月の上尾市幼・保・小連携合同研修会の中で取り扱ったことはありません。小学校の先生方のみを対象とした幼児教育に関する研修会は市内ではありません。県主催の南部地区幼・保・小連携推進研修会には参加していますので、回数で言うと市と県で年に2回は研修会を行っていることとなります。
意見 【田中委員】	市の研修会には、小学校の先生が来るということで、主任や5歳児担任の先生を参加させていますが、来年もその人が5歳児を担任するとは限りません。
質問 【首藤委員長】	研修会の内容を園の中で広げる機会はないのですか。
回答 【田中委員】	ありません。一日中子供がいる状態で、研修の時間が取れません。園の保育計画に「10の姿」は入っていますが、個々がそれを読んでどこまで理解しているのかというのは、正直わかりません。5歳児の担任になったときに、「10の姿」をかみ砕いた毎日の実践の中で結び付いていくのだと思います。
質問 【首藤委員長】	上尾市の幼稚園協会でもそういった研修はないのですか。
回答 【稲田委員】	「10の姿」が出始めた頃に、教職員全体にというよりは、園長等を対象にした研修会がありましたが、そのあとはなくなりました。
回答 【上松委員】	真正面から「10の姿」を取り上げる研修というのはありません。どちらかというと先生方は音楽とか体操とか、次の日にすぐ使えるような実践的な内容に関心があります。
意見 【田中委員】	「10の姿」の読み取りは、施設の環境によっても大きく変わってくるので、取り上げにくいのかもしれない。
感想 【首藤委員長】	「10の姿」の読み取りを通じて園内研修会が行われるといいと思いますが、時間がないということですね。
意見 【田中委員】	「10の姿」の積み上げを指導してくれる人が必要です。
意見 【首藤委員長】	経験10年くらいの先生がリーダー的な存在になれるといいです。「10の姿」を養成校で学んできた先生は、卒業して4～5年経っていますので、若くてもそういった先生方が経験を積む中で力を付けていけるとよいと思います。
意見 【田中委員】	コロナ禍で在宅ワークとなったとき、先生方なりに「10の姿」をかみ砕いたものをそれぞれ出してもらおうようにしました。ただ、面白いのは出ましたが、みんなで話し合っただけではいきませんでした。
意見 【首藤委員長】	園の特徴をおさえた「10の姿」の読み取りは、園の先生方が理解していないと他校の先生に説明できないので、やはり園の中での研修は大切です。
質問 【清水委員】	幼稚園で指導案を書くときに、「10の姿」のうち、「これを伸ばすためにこんな遊びをやっている」といったことは書かないのですか。
回答 【首藤委員長】	総合的な活動としての遊びですので、「今日は『10の姿』の協同性を取り上げます」というようなことはやりません。
意見 【田中委員】	保育士一人一人があとで振り返ったときに、「ここに当たるのかな」と気付けてくれればよいと思います。

質問 【清水委員】	では、どこかに「10の姿」を書いて貼っておいて、「今日はこれをやった」と確認するような感じですか。
回答 【寺崎副委員長】	「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」というものが既に出ていて、その中に「10の姿」についても書かれています。それをどのように普段の生活の中の子供たちの活動から読み取るのか、イメージ図まで載っています。こちらはホームページからダウンロードができますので、こちらも確認するとよいと思います。「10の姿」をチェック項目のように読んでしまうと、達成目標のようになってしまい、できているかできていないかということになってしまいます。「10の姿」は、到達目標ではなく方向目標と繰り返し唱えられていますので、見方を間違えないように気を付けなければなりません。
回答・質問 【首藤委員長】	「今日の保育は、『10の姿』のこの部分についてやります」ということはいわけです。小学校の生活科になりますと「今日の学習は『10の姿』のこの部分に関係していた」という表現を使うことが一般的になると思います。さらに国語なら「言葉による伝え合い」のように、具体的な教科との関係が示されるようになってきます。それは小学校教育の特徴と言えます。幼児期の遊びの中での無自覚な学びから、学ぼうという意識をもった自覚的な学びに変わってきます。「10の姿」は幼児教育施設の先生も小学校の先生も共通言語としてお互いが知っていなければなりません。 話を研修会に戻します。保育園ではどのような研修を行っていますか。
回答 【阿久津委員】	領域別研修といって、1年間かけて5領域＋食育の研修を行っています。3時間くらいの研修になりますが、先生方が領域を選んで参加し、各園の実践を発表して協議を行います。
回答 【保育課・小玉主幹】	縦割りで0歳から5歳までの担任が各領域に集まりますので、最終的には「10の姿」にもつながると思います。研修の内容については、園内研修でフィードバックし、全職員に周知するようにしています。毎年先生方が参加する領域が変わってはいきますが、園内研修を行いますので積み重ねはできていくと思います。ただし、先ほどから話題に出ているとおり、職員の吸収の仕方には個人差がありますので、知識の差は出てくると思います。この研修は、職員の学びの場として9年やっていますが、その前は年齢ごとにやっていたので、研修自体は長い間取り組んでいます。
意見・質問 【田中委員】	公立の保育士をやっているれば、異動しても引き続き研修に参加できるので蓄積できるということですね。そこに私立園も入れてもらえないでしょうか。
回答 【保育課・小玉主幹】	検討します。
意見 【首藤委員長】	公立園と私立園と一緒に研修できるとよいと思います。課題1については幼児教育施設側も小学校側も「10の姿」について理解し、読み取り方を研修で学ぶということが、まず必要かと思います。

(2) 幼児教育施設で育まれた資質・能力と、低学年の各教科等における学習との円滑な接続について

<p>報告 【事務局】</p>	<p>お手元の資料31・32ページを御覧ください。第1回協議会で出された現状の3つ目として、「新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、職員間の連携や子供同士の交流会が再開している」ということが挙げられました。コロナ明けで様々な取組が再開したこのタイミングをよい機会と捉え、これまでの連携の在り方について見直していく視点から課題が2つ挙げられます。</p> <p>まず、「効果的な幼保小連携の在り方」でございます。前回の協議会や合同研修会の中で「教員間の交流が足りない」「就学のための準備や先取は、連携とは違うのではないか」などといった意見が出されました。単発的な交流会で終わることなく、幼児期に育んだ資質・能力を小学校につないでいくためにはどのような連携が必要であり、効果的であるのか、合同研修会の内容などにも触れながら御意見をいただければと思います。</p> <p>続いて、課題2とも関連してきますが、「中学校まで見通した連携の在り方」でございます。前回の協議会の中で、「中学校区で目指す児童生徒像を共有していくことが必要」であるとの意見が出されました。架け橋期の教育の充実につきましては、「0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、架け橋期の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要」であるとされています。今後、「中学校まで見通した連携」ということも、必要な視点となっていくのではないかと思います。</p> <p>これらの課題について、様々なお立場から御意見をいただければと思います。</p>
<p>意見 【首藤委員長】</p>	<p>小学校の校長先生は、グランドデザインを作りますが、これはとても大事なことかと思えます。これを地域に共有してみてもどうでしょうか。幼児教育施設側も、小学校の目標や特徴を知ることができます。それに合わせる必要はありませんが、知ることによって変わってくるのではないかと思います。関連して、「10の姿」の読み取りも観点が変わってくるかもしれません。幼保小が目指す子供像を一致させる必要はないと思いますが、方向性を共有するといいいのではないかと思います。小学校としてはいかがですか。</p>
<p>回答・意見 【石田委員】</p>	<p>「小学校としてこういった子供を育てていきたい」ということを共通理解していただくことは、非常に大切なことだと思います。懸念していることとしては、学習に特化した園や体力向上を進めている園、言語的などところに力を入れている園など、様々な幼児施設から子供たちが来るので、学校が経営方針を示したときに、各幼児施設でどのように御理解いただけるのかということだと思います。手広くやってしまうとなかなか厳しいと思っています。去年は、新入生保護者説明会の御案内の手紙を各園に送りました。来年度入学してくる子供の保護者に向けた話ですが、「卒園までにこんなことをしてくれたら嬉しいです」という話を聞いていただきました。また、1年生の職員に、「本校としてこんな力を付けてもらいたい」ということを別に作ってもらって、御案内の封筒に入れました。各幼児施設の中で、平方小学校ではこういったことを求めているのであれば、残り1か月注意して取り組んでいこうという視点をもってもらえるかと思ってやりました。グラ</p>

	<p>ンドデザインを渡すことは簡単なのですが、交流できる場を設けておかないと、こちらからの一方通行をどのように御理解していただけるかという不安があります。だから、例えば学校公開のときに来ていただいて学校を見てもらって、幼児施設でやっていただいたことが実を結んでいることを理解していただくといったことが、来年度以降のつながりとしてありがたいと思います。学校から情報発信するときに、御招待して共通理解していく中で、園に持ち帰ったときに何か疑問があれば連絡がくるのではないかと思います。学校としても意見交換の場を工夫して作っていかないとはいけません。ただ、どこの学校も幼児施設も忙しいので、時間をうまく使って、職員に負担をかけないようにしながら、よりよいものを作っていくことがこれからの課題となります。やらなくてはならない必要なものだと思いますので、そこは管理職の腕の見せ所だと思います。</p>
<p>意見 【清水委員】</p>	<p>加須では、リンクミーティングというものをやっていました。中学校区ごとに中学校、小学校、保育所、幼稚園などが全部集合します。年に3回実施していて、1回目は校長だけで、2回目は PTA や学校評議員が加わり、3回目は公私の幼児教育施設の園長先生なども含めて、義務教育卒業段階で目指す生徒像を一致させましょうということをやっていました。その時は、「時を守る・場を清める・礼を正す」ということを、生徒会が主体となって、園児にも分かるようにいろいろと考えて取り組み、中学校区で共有しました。それをもとに各校でグランドデザインを作り、幼児教育施設でも理念を共有するようにしました。立ち上げるまでは大変かもしれませんが、上尾市が小中連携を進めていくのであれば、そこに幼児施設が入ってくるのも自然なことだと思います。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>中学校の先生としてはいかがですか。</p>
<p>回答 【学校教育部・瀧澤部長】</p>	<p>加須の場合は幼保小中を一貫で捉えてやっているし、草加は生まれてから15歳までを一体的に捉えて子供たちを育てている。本市では、令和8年度以降、小中一貫教育ということで、目指す児童生徒像を設けて共有しながら、9年間を捉えて子供を育てていこうという方向性を打ち出しています。だから、小中においては、目指す子供像について中学校区で共有していくという流れです。</p>
<p>意見 【首藤委員長】</p>	<p>ややもすると、上からの押し付けになってしまいそうですが、接続ということを考えると、よさをつなげていこうという視点が必要になると思います。</p>
<p>意見 【学校教育部・瀧澤部長】</p>	<p>それには、相互を理解しなければならないと思います。小中もそうですが、幼保小中をつなげていくのであれば、中も幼小を知る必要がある。だから、小中一貫も課題は何かというと、小中の理解です。文化も違うし、発達も当然違いますから、そこがポイントだと思います。</p>
<p>質問 【首藤委員長】</p>	<p>幼稚園は学校教育法で学校と定められていますが、そういう動きになったときに私立幼稚園はどうですか。</p>
<p>回答 【稲田委員】</p>	<p>かなり壮大な議論になってきましたが、私たちとしては、まずは小学校との接続を大事にしていきたいと思います。</p>
<p>意見 【上松委員】</p>	<p>市町村が変わっても、子供たちの育ってほしい姿というのは共通していると思うので、そこまで心配はありません。ただ、私立幼稚園は一園一園独特のものがあるので、どのようにグランドデザインをつくれればいいのか、悩むところだと思います。</p>

<p>意見 【首藤委員長】</p>	<p>保育園が入っていくためには、行政の連携が必要です。また、連携を進めていくためには、上尾市版の架け橋プログラムなどがあると後押しになるかと思います。</p> <p>いろいろな御意見をいただきました。課題も出していただきましたし、その課題解決に向けた案も出されたかと思います。最後に、寺崎副委員長、御意見等あればお願いいたします。</p>
<p>意見 【寺崎副委員長】</p>	<p>架け橋プログラムの目指すところは、地域社会で子供を育てていこうということが一番です。小学校だけ、あるいは幼児教育施設だけではなくて、地域で上尾の子供たちをどのように捉えて考えていくか、「その子供の将来も考えているよ」ということが、回りまわって、保護者の方々にも伝わり、安心にもつながっていきますし、そこの取りまとめが上尾市の教育委員会になっていくのかと思います。地域社会をどんなふうにしていこうかといった話が、いろいろな機会に話し合えるといいと思います。</p>